



木から学ぶ

学校長 小邑 政明

私の自宅の近くに「境川堤」という桜の名所がある。開花の時期には多くの人が花見に訪れ、出店も出てにぎやかだ。昔の人は花見のためだけに桜を植えたのではなく、木が根を張ることで堤防の決壊を防ぐという知恵もあってのことと思う。木は根から水と養分を吸い上げて成長し、花を咲かせ実をつける。木を見ていると人の成長と重なるように思える。

子どもは、自由の中で自分の個性を生かし、冒険しながら成長していくものであり、将来にわたり様々な力を身に付けていく可能性も秘めている。しかし、大人はそんな子どもを自分の経験の物差しで計り、無意識につい規制をかけてしまうことがある。

さて、ここで「困」という漢字を取り上げたい。「困」は解字辞典によると、「□(かこむ)+木」で、木を囲いの中に押し込んで動かないように縛ったさまを表す。縛られて動きがとれないので「こまる」とある。

そうであっても、何でも子どもの思うようにさせるのがよいと考える人は少ないであろう。要するに、「□(たが)」を可動式にして、大人が上手に「自由と規律」のバランスをとりながら成長を見守っていくことが大切である。

もう少し解字を続けよう。「本」は木の根っこに一印をつけてその太い根元を表

し、転じて物事を中心を意味するとある。「人+本」=体である。人の本(もと)となる体は、「早寝早起き朝ご飯」、つまり規則正しい生活によってつくられる。また、文字のとおり本(ほん)に親しむことは、子どもたちの心の本(もと)を豊かにしてくれる。

木は太い根を張り多くの養分を吸い上げて、のびのびと大木に育っていく。生徒の皆さんは、子どもから大人に成長する時期にいる。その重要な時期に関わる私たち教職員は、保護者の皆様と協力して生徒の皆さんが大木に育っていくように手助けしていきたいと考えている。

「桃栗三年、柿八年」という言葉があるが、人という木が実をつけるにはもっと長い年月が必要である。また、社会に出れば多くの人と関わり、様々な環境に身を置くことになる。自分にとって満足のいくことばかりではなく時には辛いことも多く経験すると思う。

そんなとき思い出してほしい言葉がある。ノートルダム清心女子大学学長である渡辺和子さんの名言「Bloom where God has planted you (置かれた場所で咲きなさい)」を心に留め置き、生徒の皆さん一人ひとりが、社会のためになる、大きく貴重な実をつけることを切望する。

今回は「金から学ぶ」について書きます。